
リリースノート

CentreCOM 3690TR



141 東京都品川区東五反田 4-6-6 高輪台グリーンビル

CentreCOM 3690TRをご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、「CentreCOM 3690TR オペレーションマニュアル」の内容を補足するものです。

(1) 「CentreCOM 3690TR オペレーションマニュアル」について

本製品に添付されています「CentreCOM 3690TR オペレーションマニュアル」は、スタンドアロンでの使用を前提に書かれております。セグメントドラック (C36C7SG/C36E7SG) でご使用の際は、セグメントドラックに添付のマニュアルをご参照ください。なお、第6章の「6.0 Port Status (ポート状態メニュー)」の **Interface Autosense** は下記のように訂正いたします。

Interface Autosense (フロント側ポートとバックプレーン優先度)

C3690TRを専用セグメントド・ラックで使用した場合の10BASE-Tのポート1～6のフロント側ポートとバックプレーンの接続に対する優先度の設定ができます。

Front Panel if Link Online (フロントパネル優先)

専用セグメントド・ラック使用時に、背面の専用バスコネクタが接続されていても、フロントポートに10BASE-Tが接続されれば、フロントポートの接続を有効にします。

Backplane if Slot Occupied (バックプレーン優先)

フロントポートに10BASE-Tが接続されていても、背面の専用バスコネクタが接続されていれば、バスコネクタ接続が有効になります。



ポート7と8は専用セグメントド・ラックには接続されませんので、Interface Autosense の設定の影響を受けません。フロント側ポートのRJ-45接続だけが有効です。

(2) System administration **メニュー**の Activity monitor **について**

「CentreCOM 3690TR オペレーションマニュアル」第3章に「3.8 Activity Monitor (監視モニター)」がありますが、このサブメニューは、サブメニュー起動後に起きたポート状態の変更などを表示しますので、サブメニュー起動時には特に情報などが表示されない場合もあります。

(3) Bridging (**ブリッジ設定**)メニューのCost**設定について**

「CentreCOM 3690TR オペレーションマニュアル」のp8-18にCostの設定画面がありますが、この中で、設定値が(0~65,535)とありますが、正しくは(1~65,535)ですので、訂正いたします。

(4) MII **ポート機器使用時のご注意**

(4-1) MII **ポートにトランシーバーなどの機器を接続する際のご注意**

PHYアドレス設定については、アドレス[0]がIsolation Mode(絶縁モード)になりますので、下記の点に、十分ご注意ください。

(a) C3690TR**側の設定**

C3690TR内蔵のOmegaソフトウェアで100MポートAをMII側に設定し、C3690TRをリセットしてください。

(b) PHY**アドレス[0]での接続**

原則として、接続する機器のPHYアドレスを[0]にして(0で固定のものはそのまま)接続してください。

この場合、接続する機器はIsolation Mode(絶縁モード)になっていますが、C3690TRのOmegaソフトウェアは自動的にIsolation Modeを解除し、通信可能な状態にします。

なお、上記(a)の100MポートAのMII設定がなされていない場合にはIsolation Modeが解除されませんのでご注意ください。

(c) PHY**アドレス[0]以外に固定されている接続機器**

PHYアドレスが[0]以外に固定されている接続機器をご使用になる場合は次の点にご注意ください。

(c-1) PHYアドレスが[9]でないことを確認してください。

PHYアドレスが[9]の機器はC3690TRではご使用になれません。

(c-2) (a)の手順によりMIIポートを有効にしてください。

MIIポートを有効にせずに機器を接続した場合、双方の機器に電気的な損傷を与える可能性があります。

(4-2) MII ポートに接続する機器のフルデュプレックス・ハーフデュプレックス設定について

C3690TRは Auto negotiation(自動検出設定) 機能をサポートしていません。

C3690TRのMIIポートに接続する機器でAuto negotiation機能を無効 (disable) にできる場合は、無効にし、通信相手の機器と設定を合わせて接続してください。

C3690TRとMIIポートに接続する機器の間の通信モードが一致していない場合は、パフォーマンスが低下する場合があります。

また、無効にできない機器の場合は、MII機器の通信ケーブルをはずした状態でC3690TRに接続し、C3690TRが電源ONの状態、通信ケーブルを接続してください。これによって、C3690TRとMII機器のモードを一致させることが可能です。

(5) CentreCOM3690TR内部ファンについて

C3690TR 本体には側面および背面に冷却用のファンが取り付けられています。

このうち、側面のものは予備として取り付けられていますので、動作いたしません。背面のファンのみが動作します。

(6) Ethernet Parametersの設定について

「C3690TR オペレーションマニュアル」のp3-7にEthernet Parametersの設定画面がありますが、Omegaソフトウェアのバージョン1.1.1c以降では、画面が下記のように変わり、Forwarding delayの項目が追加されています。

```
Forwarding Mode:                               Cut-Through
LED Mode:                                         Collision is Indicated on Amber LED
```

```
Please select an option:
```

```
    Store-and-Forward
  >  CUT-Through

  >  Collision is Indicated on Amber LED
    Transmit is Indicated on Amber LED
```

```
Forwarding delay:                               4
```

```
->
```

ここで、F と入力すると下記のような画面が表示され、ポート1～8すべてにたいするForwarding delay の設定が行えます。

The current Forwarding Delay is:

4

Please enter a new value, or Return to retain the existing one.

Specify a value in the range 0-30 seconds

この画面で設定する Forwarding delay の値は、スパニングツリーの設定（オペレーションマニュアル第8章）のところで設定するForwarding delayの値とは指定内容が異なります。

ここでのForwarding delayの値は、スパニングツリー設定がオフの際、リンク確認後のポートのイネーブルになるまでの時間を設定することになります。

上記画面で、値を小さくすることによって、スパニングツリーがオフの時、リンク確認後のイネーブルになるまでの時間を短縮することができます。（0 に設定すれば、ケーブル接続後すぐにイネーブルとなります。）

なお、スパニングツリーをオンに設定してある場合には、ここでの設定値は意味をもちません。

以上